

囲いやま森の会 観察記録

2008.3.20 野口 功

日 時： 2008.3.18 (火) 10~12時 天気： 晴

記録・写真： 山田幸子

囲いやまは早春を迎えています。ウグイスの初鳴き(ホーホケキョ)を聞きました。春に向い様々な自然の歩みが見られます。コブシの木が、白い花をつけ始めました。シュンランも咲きました。南広場では数種の野草が、可愛い姿で咲いています。心が和み、時の経つのを忘れてしまいそうになります。

前回の作業で植えつけたシイタケは、ホダ木の中で、どのように成長してきているのでしょうか。今は菌糸体をはじめぐらしている時期でしょうか？菌糸体が成長していくための、適当な水分と温度は足りているのでしょうか？ミクロの決死隊になって、ホダ木の中に入り込んでみたいものです。

18才のころだったと思う。北方の自然への興味がどうしようもなく募っていた。…で始まる「アラスカ光と風」星野道夫著を読むと、かつて人々が聞いていた大地の声に、耳を澄まそうとしている人の姿が描かれている箇所が、出てきます。未踏の大自然は、実はたくさんの人々が通りすぎ、様々な物語に満ちているように思えます。

今、私たちが手入れをし、楽しませてもらっている小さな里山にも、長い間積み重ねられてきた素晴らしい歴史があると思うと、足を踏み入れる時の喜びが、ひときわ大きくなるような気持ちがします。

1)スギは花粉症の犯人、囲いやまのスギも膨大な量の花粉を放出します。花粉症の人ごめんなさい。スギは風媒花です、風のある日はご用心。植物の葉は対生とか互生など、規則正しくついていますが、スギの葉はどうでしょう？一枚一枚は少しずれている互生。そして小枝を良く見ると、らせん状に葉がついているのが、観察できます。太陽の光をよく受けるために、葉は少しづつずれて付いています。

2)ヤツデの葉の付き方も、観察してみてください。太陽の光を良く受けるための工夫が見つかります。葉柄の長さや、葉の開いている向きなど、どうなっているでしょう。ヤツデの葉を乾燥させたものは、「八角金盤」とよばれる生薬になり、去痰の薬として用いられるそうです。しかし、葉などにはヤツデサポニンという物質が含まれ、過剰になると下痢・嘔吐・溶血などを起こすとの事。ご用心ください。

3)地面に積もった落ち葉を、少しづつめくってみると、落ち葉の腐り方の違いに気づきます。上の方はきれいな落ち葉ですが、下にいくにつれてボロボロに分解されています。分解された落ち葉は、また植物の養分になります。誰が落ち葉を分解しているのでしょうか？実は、土の中にはたくさんの生き物が住んでいます。モグラ・ミミズ・ダニ・トビムシ、小さいものでは線虫やアーマーバ・細菌など、カビやキノコもいます。これらの土壤動物が落ち葉を分解しています。森の中で片足が踏みついているダニやトビムシの数は、3000匹以上だとされています。

4)スギの伐採した枝がイヌシデにぶつかりました。そこから、イヌシデの樹液が流れ落ちてきました。
舐めると、ほのかに甘い味でした。

5)今日の様にお天気のよい日には、生き物が観察できるようになってきました。ミズキにはクモが巣をはっていました。アリも巣に何やら運んでいました。ヒシバッタも南広場で飛び回っていました。
人も生き物の仲間、春が近いと、身体も心もウキウキしてくるものです。

開花植物

木本 コブシ

草本 シュンラン・オオイヌノフグリ・ヒメオドリコソウ・コハコベ・ミドリハコベ・ナズナ・ホトケノザ・スズメノカタビラなど

実についている植物 キヅタ・マサキ・アオキ・ヤツデ・リュウノヒゲなど

鳥 ヒヨドリ・アオジ・シジュウカラ・エナガ・モズ・オナガ・コジュケイ・ウグイスなど

昆虫 アリ・ヒメアカタテハ・ヒシバッタ・ナナホシテントウ・ミスジマイマイ・シロカネグモの仲間など

キノコ スエヒロタケ・ハチノスタケ・カワラタケ・エゴノキタケ・アラゲキクラゲ・キクラゲなど

囲いやまの森

2008.3.18(火) 山田幸子

コブシ・シュンランや野草の花が咲き始め
ウグイスの初鳴きも聞こえ、虫や生き物が
顔を出し、囲いやまは早春を迎えてます

